木戸公ゆかりの地“石長松菊園”

京都府・京都市『石長松菊園』

古都京都の中ほど、北に京都御所、西に二条城、東に鴨川、その向こうには東山の山並みが連なり、観光アクセスにもとても便利な閑静な地にたたずむ石長松菊園。この地は明治維新を成し遂げ、近代日本の礎を築いた維新の志士“桂小五郎（のちの木戸孝允）”の屋敷があったところです。当館の名称「松菊園」は孝允の号にちなんだものです。

雅号「松菊」の由来は、木戸公が幕末、新撰組や幕吏に追われて逃げているとき助けられた二人の芸妓、一人は後の松子夫人「幾松」と、もう一人は「ひな菊」…その命の恩人二人の「松」と「菊」から「松菊」と称したと伝えられております。京のもてなしの宿“石長松菊園”の一日はお客様を暖かくお迎えする事からはじまります。ロビーには随所に舞妓さんの絵や四季折々の花が飾られ、はんなりとした京都独特の風情の中に、木戸孝允公直筆の遺墨、額等を多く保存展示致しております。特に有名な所謂五箇条の御誓文（広く会議を興し万機公論に決すべし…）の基礎文となった木戸公の建白書なども展示しております。

当地が史実上有名なのは木戸公が国政の舞台を降りて、京都に来られたとき、当時この辺りは公卿屋敷（有栖川、鷹司、近衛家など…）が並んでいましたが、その公卿屋敷の一つ近衛家の別荘（河原御殿）があった此の地を譲り受け京都別邸と致しました。不幸にして病におかされ明治 10 年、45 歳の若さで他界されますが、病床に伏せておられますとき、当時の国家元首である明治天皇が病気見舞いにわざわざ此の地を訪れておられます。当時民間人の見舞に国家の元首が自ら赴かれたことは、木戸公をもって初めと聞き及んでいます。その記念として隣接地に「明治天皇行幸所木戸邸」と刻まれた石碑が現存しています。

その後、遺族の方も住居を東京に移されるに及んで、当方が跡地を譲り受け、昭和 29 年に「石長」として料理旅館を開業するも、昭和 45 年大阪での万国博覧会開催を機に増改築を成し、名称も石長松菊園と改め多くの観光客をお迎えし、更に平成 7 年には「和」を基調とした全面リニューアルを致し今日に至っております。

「おこしやす」京のもてなしのことばは石長松菊園の信条です。価値観やライフスタイルの多様化が進む時代にあって、遠方からお越しくださるお客様に、より多くの感動とご満足、そして楽しい思う出をお持ち帰りいただきたいと日々願っております。

“史蹟・高瀬川一之船入”

近隣の運河高瀬川は鴨川の水を取り入れ、慶長 16 年（1611 年）頃、嵯峨の豪商・角倉了以が開削し、近世京都の水路交通の要となりました。この交通大動脈の完成は京都と大阪を直接水運で結ばせることになり、近世京都の経済発展を支える基となりました。往時には百数十隻の高瀬舟が日々往来し、上りは米、酒、醤油など原料を、下りは大八車、長持など製品類が運搬されていました。その積荷の揚げ降ろしをするために設けられた当時の貨物積卸場を“船入り”といい国の史跡に指定されています。船入りは一之船入りを始めとして数ヶ所設けられておりましたが、現在一之船入りには復元された高瀬舟は船底が平たく船首が高いのが特徴です。

明治以後、高瀬川は船運の目的を失いましたが、かつては多くの材木屋が立ち並んでいたことにその名を由来とする木屋町通の川沿いに柳や櫻を植えた景観は京都の情緒の大きな要素となっており、付近には老舗の料亭や料理旅館が軒を連ねています。

毎年 9 月に開催される「高瀬川舟まつり」では川辺に露店や茶席が設けられ、多くの人出で賑わっています。

京都府　京都市

石長松菊園

〒604-0901
京都府中京区河原町竹屋町東入る
Tel ：075-222-1101